

【泉区】令和2年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年9月4日 午後1時51分 ～ 午後3時11分
場 所	泉区総合庁舎4階 4ABC会議室
出席者	<p>【座 長】源波 正保 議員</p> <p>【議 員：3人】梶村 充 議員、麓 理恵 議員 横山 勇太朗 議員</p> <p>【泉 区：21人】深川 敦子 区長、鳥海 仁 副区長 村田 二郎 福祉保健センター長 竹田 良雄 福祉保健センター担当部長 木我 陽子 福祉保健センター医務担当部長 安達 秀昭 土木事務所長 小林 修二 泉消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和元年度泉区個性ある区づくり推進費事業実績 2 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費執行状況 3 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う自主企画事業の見直し 4 令和3年度泉区予算編成の考え方 5 その他
発言の 要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和元年度泉区個性ある区づくり推進費事業実績 <p>梶村議員：定住・転入促進事業について、インスタグラムの^{ハッシュタグ} # 住むなら泉区など、一生懸命取り組んでいるのは分かる。しかし、実際は10年で4,000人近く人口が減っている。この事業を行うことで、人口の流れはどう変わっているのか。把握していれば教えてほしい。</p> <p>河村区政推進課長：事業が始まって間もないことから、この事業により具体的に人口動向がどうなっているのかの把握までには至っていない。事業の検証としては、ホームページのアクセス数やインスタグラムのフォロワー数を1つの指標としている。将来的には、人口が回復していくことが事業の最終目標となるので、そこに向けて取り組んでいきたい。</p> <p>梶村議員：この事業が始まって間もないということはわかった。相鉄線・</p>

J R線の乗り入れが始まり、将来的には東急東横線の乗り入れも始まる。人口の経過は不明とのことだが、人口を減らさないことも大事にしてもらいたい。人口の増加については、毎月議員の方にも報告が来ており、見ている。泉区と同様に人口に課題を持っている金沢区や栄区も人口数は全体的に横並びになっている。昨年からは全体的に人口が減っていることから、区長会議等でも人口減少についての課題を共有してもらいたい。当然、議員からも訴えていく。国勢調査など、コロナ禍で訪問するのは難しいと思うが、色々と頑張ってもらいたい。区長からひと言もらいたい。

深川区長：ご指摘通り、周辺区、特に人口減少が大きい港南区、金沢区、栄区については、人口減少に大きな課題を感じており、色々な取り組みをしている。例えば、大学との連携や、若い方をどう取り込んでいくか、各区模索しながら取り組んでいる。泉区では相鉄とも課題感を共有しており、民間の力を活用しながら、泉区ならではの特色を出しながら取組をやっていきたい。新型コロナウイルス感染症の影響でワークスタイルが変わったこともあり、8月にNHKの番組内で泉区の不動産に関心があるという傾向も紹介された。周辺区とも連携を取りながら進めていきたい。

梶村議員：泉区は9つも駅があり、交通の便が良く、東京への乗り入れも始まった。また、農地面積が広く、減らすわけにはいかない。一方で、駅周辺の容積率について、強く要望しないといけない。相鉄、地下鉄の駅も含め、駅周辺の容積率は200%である。最低でも、賑わいを生むには、300%から400%は必要。横浜市は用途地域の見直しができるので、そういったことも主張してほしい。先ほど大学の話が出たが、泉区にもフェリス女学院大学もあることから、協力し合うことも視野に考えてほしい。

麓議員：高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業について、上飯田団地は高齢化率が非常に高い。昨年の実績（安否確認登録：48件）について、区役所としてどう捉えているのか。また、どのようなやり方で登録者を募ったのか。

塗師高齢・障害支援課長：当事業は昨年4月から開始した事業で、上飯田団地の見守り会議や地域ケアプラザでの会合、地域の会議へ参加し、地元の方への周知を図ってきた。また、個別訪問も行っており、一棟一棟、

相談希望の有無に関わらず訪問し、必要な時に声をかけてもらうよう促した。

麓議員：高齢者が多い一方で、自治会の役員の方たちが活発に活動されている。登録件数を増やすだけでなく、お知らせをすることで、地域とつながれる体制をより高めてもらいたい。

源波議員：先ほどの梶村議員の人口減少の話にもつながるが、昨年、相鉄線にJR線の乗り入れが開始され、イベントも開催された。泉区がある西部方面は、横浜市としてどう都市図を描いていくのか、極めて重要な課題と認識している。駅前の容積率の課題がある一方で、泉区は自然に恵まれたバランスの取れた土地のまちづくりが重要になっていく。

相鉄・JR直通線開通関連事業について、鉄道事業者と連携して、とあるが具体的にどのような連携をして、どのような効果があったのか。また、住み続けたいまちにどうつなげていくのか、思いがあれば聞かせてほしい。

鳥海副区長：相鉄・JR直通線開通イベントはいずみ中央駅前で開催することから、相鉄企業へも声をかけたところ、会場の一部提供や商業施設によるコンコースでの飲食ブース出店、イルミネーション会場でのブース出店など、一緒になって盛り上げてくれた。その結果、多くの方に来場していただいた。

また、建築局のいずみ野線沿線における持続可能なまちづくりの取組や、環境創造局の農を生かしたまちづくりとも連携し、今後も働きかけ、盛り上げていきたい。

源波議員：相鉄線との連携は、今後も官民の連携を深めていく中で頑張ってもらいたい。こういった事業は、市税収入にも影響する。東京23区ほどの影響はないと思うが、色々と考える大変な時期。区の方でも引き続き頑張ってもらいたい。

2 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費執行状況

3 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う自主企画事業の見直し

麓議員：9月補正予算案の1つに、公園愛護会支援が入っている。内容としては、活動を自粛していた緊急事態宣言中に公園内の草木が繁茂してしまったことから、草刈りや中低木の刈り込み作業を横浜市が行うという内容で補正予算が組まれている。補正予算を組むにあたって、各

区愛護会へ支援の有無を聞いているそうだが、泉区の状況を教えてほしい。公園愛護会だけでなく、水辺愛護会の活動も多くあるので、その辺の状況を教えてほしい。

洞澤土木副所長：緊急事態宣言中に公園愛護会の活動自粛が余儀なくされたことから、90 近くある泉区内の公園では草刈り等が十分できていない状況と聞いている。6月から活動は再開しているが、補正予算を活用し、区内造園業者に草刈り等の業務委託を行うことで、愛護会活動を支援していく。現在、契約の準備を進めている。水辺愛護会については、緊急事態宣言中は活動自粛をお願いしたため、宣言解除後の6月から活動を再開しているが、今のところ何とか対応できていると聞いている。また、ハマロードサポーターについても、6月から活動を再開しているが、今のところ大丈夫と聞いている。まずは公園愛護会の活動を支援し、様子を見ながら他の活動についても支援していく。

4 令和3年度泉区予算編成の考え方

梶村議員：新型コロナウイルス感染症の影響として、固定資産税などの延納や免除などのケースがあるが、泉区ではどの程度か把握されているか。また、ケースによっては3年間延納が認められると聞いているが、そのような案件もないのか。

鳥海副区長：税金に関する相談は多いが、徴収猶予の申請はあまりなかったと思う。税目は不明だが、徴収猶予の件数については7月末時点で1件と聞いている。

横山議員：感染症対策として区役所の職員は、マスクを自主的に着けているのか。

深川区長：自分が感染しない・させないために、マスクを着けて対応している。マスクを外した状態で業務を行うことで、万が一濃厚接触者となると区役所の業務そのものにも支障をきたす可能性がある。それらを踏まえ、マスクを着けるという予防対策をした上で業務に取り組んでいる。

横山議員：横浜市の予算編成がこれから行われる。SDGsや新しい生活様式に関する視点も加わっていく。一方で、今後新型コロナウイルス感染症の特効薬等によって、状況が改善された場合もこのような対策をとっていくのか、区長の意見を聞かせてほしい。

深川区長：約 10 年前に新型インフルエンザが流行した際にはインフルエンザの薬が効き、収まった。今回の新型コロナウイルス感染症もワクチンや薬ができれば普通の風邪と同じようになるかもしれないが、現状ではまだわからない。そのため、先ほどの感染症対策としてマスクを着ける等の対策をしていく。ワクチンなどができ、元の生活に戻ることを期待している。

横山議員：これらの視点を盛り込んだ事業や予算について、そのまま執行していくのか。

深川区長：事業の趣旨は変わらないため、新型コロナウイルス感染症が収束したとしても、同じ予算の枠の中で手法を変えて実行することができる。現段階では、希望的観測で実施するとは言えない。まずは新しい日常へのチャレンジとして、柔軟性を持って事業を組み立てていきたい。状況が変わったら柔軟性をもって変えていく。

横山議員：大変な時期の就任になったが、頑張ってもらいたい。

岡本総務課長：次年度の予算については、先ほどの区長の説明のとおり、ICTを活用するなど、新しい生活様式に合わせた事業の展開や課題解決を踏まえた予算編成を考えていく。

梶村議員：コロナ禍で熱中症により救急搬送された人はどれくらいいるのか把握しているか。

小林泉消防署長：今年度の熱中症の搬送者数は昨年と大きく変わっていない。5月から集計している熱中症の搬送者数は8月31日現在で、今年度は1,149件で、昨年度は1,099件だった。今年度は梅雨が長く、7月はあまり気温が上がらなかった。そのため、7月は87件と多くなかったが、8月に入って急に気温が高くなったため、942件と大幅に増えたが、昨年度の合計数とは差が出なかった。

梶村議員：新型コロナウイルス感染症の陽性者の搬送はあったのか。

小林泉消防署長：新型コロナウイルス感染症の陽性者の数は把握していないが、陽性の疑いがある件数は一週間に数件あったと聞いている。

梶村議員：少ないのは結構だが、救急隊の危険手当は出ているのか。感染症患者の搬送手当は出ていると聞いているが、いくら出ているのか。

小林泉消防署長：陽性者または陽性の疑いがある人に接触した場合は、特殊勤務手当が1回で4,000円が支給される。

梶村議員：1回で200円と聞いていたが、変わったのか。

小林泉消防署長：今年の4月1日時点の通知ではその通りだった。しかし、国の考え方等が変わった関係で、5月29日の通知で4,000円に上がった。

梶村議員：よく周知されていない関係で、地域の消防団から手当について言われている。変わったのであれば、きちんと説明してほしい。自分も4,000円であることは知っているが、せつかく変わったのであればよく知らせるようにしてほしい。

横山議員：国際・経済・港湾委員会の委員長に就任しているが、毎年この時期になると台風等の対応で忙しくなる。特に土木事務所は大変になりそうなので、ぜひ頑張ってもらいたい。

安達土木所長：九州の台風も注視しながら、体制を整えられるようにしている。ゲリラ豪雨のような突発的な災害には対応しきれない部分もあるが、台風のようにある程度事前に来ることが分かっているものは体制をきちんと組んで対応したい。

小林泉消防署長：泉区は川の氾濫が多くないと考えているが、崖地が多いため、そこの心配をしている。

麓議員：報道にもあったが、来年度の横浜市の税収が960億程度の赤字になるとあった。令和3年度の予算の考え方も示されたが、各区局に対しても大変厳しいものになる。市民、区民に接している区の中では、生活を支えるために減らせない部分もある一方で、ゼロから考えていくとあるが、どのように考えていくのか教えてほしい。区役所という立場で聞かせてほしい。

深川区長：ゼロからと言っても難しいものもある。とはいえ、1つ1つの事業趣旨が地域の人たちの課題解決に繋がっているのか、サービス向上につながっているのか、効果が出るやり方か、という視点で手法も含めて丁寧に見直していきたい。すべての事業を新しく立ち上げるという意味ではなく、これまでに積み上げてきたものをいかし同じ事業であっても、やり方を含めて考えていきたい。

麓議員：頭をひねって考えていくと思うが、地域協議会での議論を通じて地域の声を反映してほしい。

栗竹地域力推進担当課長：先日開催された地域協議会の課題検討部会で、コロナ禍の影響について委員の皆さんに伺ったところ、各地域の行事

が軒並み中止になるなど、顔を合わせる機会が減ったとのこと。定例的な会議の開催方法をどのようにしていくのか、皆さん考えておられる。その辺の課題等も踏まえて予算編成に反映していく。

5 その他

梶村議員：泉区での認知症の人数は把握しているのか。

塗師高齢・障害支援課長：日々変動しているため、正確な人数は把握できていない。介護度の段階での人数はわかるが、その方が認知症かどうかは診断前の方もいるため、全体の数としての把握はできていない。

梶村議員：介護保険を活用して、農に親しんでもらう活動をしている。また、元泉消防署長も参加しているボランティアの活動として地域を回っている活動もある。そういったところと連携するといいいのではないか。在宅の介護に関しては潜在的に困っている人も多くいる。急に施設へ入所するのも難しい。自宅で介護しながら、使えるサービスを提供できるようなことがあれば教えてほしい。

塗師高齢・障害支援課：在宅での認知症の介護をされているご家族もたくさんいるので、訪問看護師やホームヘルパーの利用、施設入所の方であればグループホームへの入所など、民間のサービスを取り入れる選択肢もある。家族の負担を増やさないよう、区役所や地域ケアプラザ、包括支援センターでも、色々と提案できるため、相談してほしい。

備 考